

第4分科会 農業・河川

提案1 農園で気軽に健康づくり～みんなでエクササイズ農園に取り組もう～
提案者 農業政策課

(主な意見)

- ・大規模な借り受けには手が出ない。都市化が進んだ小規模農地で、遊びと地産地消を目的にしたほうがやりやすいと感じる。
- ・全県域・県民を対象とされると、地域で活動しているNPOにとっては、これまで関わったことのない市町村との調整が心配である。県からの働きかけは期待できるのか。
- ・河川関係では行政やNPOが定期的集まって意見交換している。農業関係でも同じように集まる機会を設けてはどうか。

提案2 外来魚駆除・活用推進事業～ストップ・ザ・ブラックバス～
提案者 生産振興課

(主な意見)

- ・「美味しく食べる」など、ブラックバスを利用する見方がでてくると、完全な駆除ができなくなるのではないだろうか。ブラックバスをゼロにしたいのか、利用したいのか、どちらなのか、はっきりした方がよい。
- ・食べてみようとか、美味しいとか思ってもらって成功体験をつくることも大切ではないか。県庁の職員食堂でメニューにして宣伝するのはどうか。

提案3 水辺再生のための「川の教室」づくり
提案者 河川砂防課

(主な意見)

- ・教育委員会が動かせれば、全県的な取り組みとしてやりやすくなると思う。
- ・護岸工事が進んで親水ができる場所が減っているので、まずモデル地区をつくり、NPOが入っていくのが良いのではないか。

提案4 河川敷ゾーン（自然再生保存ゾーン、改善監視ゾーン）の設定
提案者 (特) 元荒川をきれいにする会

(主な意見)

- ・河川敷の利用方法は分かりづらいのでマニュアルを作ったら良いと思う。農業河川と都市河川の違いもみんな分かっていないのが実状である。
- ・「みんなで河川敷を楽しみましょう」というイベントを企画すれば、ゾーンという考え方につながるのではないだろうか。

(4つの提案について アドバイザーより)

- ・ NPO活動をしながら行政と関わっている立場として思うのは、情報を出したい時に行政が関係団体にポスティングしてくれたら、ということである。NPOは横のつながりが少ないので、行政にはネットワークサポート、システムづくりで協力して欲しい。
- ・ NPOは地域コーディネーターであるとも感じている。あらゆる主体を巻き込んで、協力しながら活動を広げていくことも大切。縦割りの行政と行政をつなげるのもNPOの役割だと思う。
- ・ 活動は持続が大切なので、何回も声をあげていくことでお互いのコミュニケーションをつくっていきこう。

注) 行政職員による発言は、一個人としての見解です。